



東大工学部原子力工学科(修士終了)、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻教授 兼原子力国際専攻教授

講演を聞いて 《ゴルフボール3つ分》

燃料サイクルの再処理施設で発生する高レベル放射性廃棄物は、他の廃棄物とは異なり 量が少ない。中味がわかっている。一生(80年間)に使う電力の半分を原子力発電で賅った場合、一人当たり出す量はゴルフボール3つ分くらいである。

《ガラス固化体にして地層処分》

放射性廃棄物処分の三原則 隔離する 遮蔽する 減衰するのを待つ、に従って今後六ヶ所再処理工場にてガラス固化体(外径約40cm,高さ約1.3m,総重量約500kg)となる。これを地下300m以深へ最終処分する予定。現在有する技術力でガラス固化体約1,400本(2006年3月末現在)が適切に管理されている。また耐用年数1000年、厚み19cmの炭素鋼オーバーパックを今、想定している。岩盤の「天然バリア」とガラス固化体、オーバーパック、緩衝材のベントナイト(粘土)の「人工バリア」を組み合わせ、余裕のある「多重バリアシステム」で長期的安全性を確保する。



昨年度の「原子力発電100の用語」認知度調査の結果で、もっとも知られていない「廃棄物分野」の用語。今年度、あすか会員が消費者の視点で、小冊子「私たちが知りたい 原子力発電の廃棄物」(仮題)を作成します。

<震災見舞いのお礼>

柏桃の輪 歌代勝子

新潟県中越沖地震が柏崎・刈羽地域を直撃し未曾有の大災害となりました。早速、全国のみなさんから温かい励ましとお見舞いを頂戴し、多くの勇気と元気をもらいました。心よりお礼申し上げます。

《安全評価》

地下水移行や天然現象、人間活動に起因するシナリオなど人はどのように被曝するのか実証出来ないで台本を書き計算する。全ての考えつく事象をリストアップし FEP の整理(特徴=Feature・出来事=Event・プロセス=Process)を元にモデルを作る。重要となる入力データは、ウランやアメリシウムなど、信頼出来る国際プロジェクトのデータベースがある。世界中の科学者が納得する値が レビューされ 常にアップデートされ Web 上で公開されている。いつでもフィードバックを得られる環境にある。日本の高レベル放射性廃棄物処分事業は世界から注目されている。

*

「人類はウラン鉱石と共存し進化してきた。」原子力に限らず、教育についても賛否ではなく、判断出来る教育を。「同じ土俵の上で、専門家と一般人の歩み寄りを考えてゆかなければならない。」断定したいが is を使えない」と科学者の言葉は心に響く。原子力発電の恩恵を受けてきた一国民として責任ある身近な問題である。一般人として、どこまで受け入れられて、どこから受け入れられないのか、技術・システム・人の視点から冷静にみてゆきたい。7月16日発生した「新潟中越沖地震」に鑑みて、このような研究が人類の未来にとって極めて重要であるという思いを強くした。(エネ・フィーメール21 古村洋子)

神津カンナと江上佳奈美の エネルギー&クッキング

食とエネルギーについての楽しいトーク。おいしくて簡単なクッキングの紹介と試食。

開催日: 9月21日(金) 14時~16時
会場:(渋谷)電力館 IHクッキングルーム
*好評のうちに締め切らせていただきました。

『雑の会 勉強会』のお知らせ

開催日: 9月30日(日) 13:30~16:00
会場: 御前崎ふれあい福祉センター・なごみ
講師: 秋庭悦子氏(あすかエネルギーフォーラム理事長)
テーマ: 「暮らしの中で考えよう! エネルギーと環境問題」 問い合わせ先: あすか事務局

トークサロン in ふくおか の予定

開催日: 11月16日(金) 13:30~17:30
会場: 博多全日空ホテル 2F
講師: 中村政雄氏 講演テーマ: 未定

ほとんどに

えねるぎっしゅ

Vol. 25 2007.9.15

エネルギートークサロン in あおもり 「子どもたちのために皆で考えよう! 地球環境とエネルギー」

2007年6月21日(木) 青森県青森市において開催しました。

青森市を中心に活動をしている子育て支援サークル「フリータイム」『フォーラムエネルギーを考える』と共催。青森県内から参加して下さった方たちと共に、地域で活動している「はまなすくらぶ」「原燃スカーフクラブ」、六ヶ所村の方や「エコネット函館」の皆様に参加いただき、あすかエネルギーフォーラムの全国の会員をあわせ76名が一堂に会しました。木元教子氏に「『100年後の地球の』の視点から」という特別講演をしていただいた後、恒例のテーブルトークでは、「子どもたちのために皆で考えよう! 地球環境とエネルギー」をテーマに、青森県の方と全国から集まったあすか会員と同じ生活者の視点で和やかに、そして活発に意見交換を行いました。

特別講演 「『100年後の地球の』の視点から」

講師 木元教子氏



プロフィール

評論家・コメンテーター/ジャーナリスト、著書: 100年後の地球(絵本) 子離れ親離れのすすめ 等

講演を聴いて あすかエネルギーフォーラム 柴田文子

「バイオエタノールは本当に環境にいいの?」こんな興味深い問いかけで始まった木元先生の講演会。その内容は今年2月にIPCCの第4次評価報告書等が出されCO2増加による地球温暖化が顕著に進んでいること、気温上昇による影響予測では平均海面水位の上昇、気象現象、人の健康、生態系があり、特に農業への影響では、開催地青森を例にしてりんご栽培が2060年には高温すぎる地域になり栽培不可能になってしまうことや、日本ではうるち米が栽培できずにインディカ米が主流になり「毎日ピラフを食べようになるわ」など笑いを交えたわかり易い説明。

また日本のエネルギー消費量の中で民生部門(特に家庭)の消費量は1973年度比で約2.3倍に増加しており、その原因には家庭用電気機器の省エネは進んでいるものの、車・パソコン等の普及拡大、テレビの大型化や機能の高度化によると考えられる、これを抑えるために私達ができることは買替時のトップランナー商品の購入、朝シャンを短時間にするなど、ストレスをためずに自

分が出来るところから取り入れ長く続けることが大切。

さらに世界のエネルギー事情では、その国々の人口、資源、自給率、考え方を説明していただき、その中で日本はCO2の排出量削減のために、2014年までに原子力発電電力量を41%にする見通しであること、原子力問題では、原子力発電廃止を決めたドイツ(陸続きで他国からの電力供給が可能)と、周りが海に囲まれた日本とはおかれている状況が大きく違うというお話では、一概に賛成、反対だけで物事を判断することは出来ないと感じた。そして日本の原子力についてはあくまでも平和利用であり、それはIAEAでも唯一認知されている、また原子力技術は世界でもトップレベルであり、その技術が今世界の原子力で平和利用のために必要として活かされ始めていることなど木元先生の話はわかり易く、伝えやすい言葉で1時間30分の講演はあっという間に私達の中に消化されていき、私達はこれらの話をさらに広めて伝えていくことが必要だと感じた。



「子どもたちのために皆で考えよう！地球環境とエネルギー」地域交流の場、テーブルトーク

木元氏の講演のあと、参加者は10テーブルに分かれて話し合い。「エネルギーを考えたとき」「子どもたちに伝えたいこと」「原子力のリサイクル」などについて、積極的に語り合いました。最後に、木元先生から講評と共に、著書「100年後の地球」の寄贈がありました。抽選では、会場が大いに沸き、当選した方は大喜びでした。



<木元先生の講演後に思い浮かんだ言葉は・・・>

- ・相互理解 ・自分の視点で話すと伝わる
- ・対話が大切 ・国民性 ・皆やっている
- ・つじつま合わせ ・広聴 ・親子で会話
- 具象的に、身近なことを教える ・小さなことから少しずつ ・砂浜がなくなる など

<テーブルトークやアンケートの中から>

- * 佐井村 O さん 熱心にエネルギーの将来を心配している人たちの集まり、素晴らしい会合に出席できて勉強になった。このことを子供、孫に伝える。
- 新座市 Y さん 様々な地域の方々と意見交流でき、自分の意識改革できたので、とても有意義なトークサロンだった。
- 青森市 K₁ さん 家庭・社会の中の身近な問題が多く出て、エネルギーに対する考えがそれぞれあってよかった。
- 本津軽郡 T さん 気がつかなくていた点をたくさん気づかせて頂いた。ありがとう。



木元先生の長年の功績に対し、叙勲されることをお聞きし、お好きなワイングラスを秋庭理事長から贈呈しました。

* 青森市 M₂ さん 子供が「もっと早く生まれたかった」と言う。環境の問題について小さいながら当事者意識を持っており、真剣。



各テーブルを飾ったフリータイムの心遣い。花と民芸「金魚ねぶた」

函館市 A さん 将来の子供達に対して、大人の我々が国民レベルで真剣に取り組まなければと思う。
佐井村 S さん 資源の大切さ、地球の温暖化からくる環境（地球）を考える。今日はつくづくそう思った。

柏崎市 H さん みなさんが勉強し、エネルギー問題に取り組んでいる様子がわかった。

青森市 T さん はじめて参加された方が六ヶ所・大間の現状を初めて耳にしたと話されたので、トークの場をもうけることが大切だと思った。

青森市 T さん 六ヶ所村には住みたくない、行きたくないと言う人もいる。勉強していない人は怖いイメージ。学校単位で勉強会があるとよい。

六ヶ所村 K さん 学校教育でエネルギーの勉強をしてほしい。

青森市 M₁ さん 実情は青森市にいても六ヶ所へ行く人は少ない。夏休みに子供たちを連れていこうと思っている。

六ヶ所村 O さん 資源の少ない日本では原子力はどこかでやらなければだめ。相互理解が一番必要だということ。

川崎市 N さん 地元の方の本音が聞けて、その意識の高さと志の高さがわかり、感謝して電気を使いたいと思った。



6/22 県産品のクイズや試食・評価アンケートをして、楽しいひとときを作った、キッチン会議の代表たち。

フリータイムとあすかの会員は放射線について学習

講演 「暮らしと放射線」

東京大学大学院工学系研究科
(原子力国際専攻) 助教授 飯本武志氏



放射線はどこにあるか？世の中のすべてのモノは放射性物質、つまり放射線はすべてのモノから出ている。人体からも放射線は出る、1秒に5,000発、そのうち3,000発は筋肉にある、つまり筋肉質の人ほど放射線の量は多い。すべてのモノから放射線は出ているので私たちはいつも被ばくしている。では温泉や健康グッズは危ないだろうか。「被爆」と「被曝」は違う。被爆とは、核兵器などの被害によって放射線や熱線などを人体に受けることを言う。被曝とは放射線にさらされることで、大切なのは量の概念である。放射線は、医療分野ばかりではなく、放射線を使うと、何千年前の土器かが壊さないでわかる。青いバラは不可能を意味する言葉として引用されるが、放射線が不可能を可能にし、青いバラを作った。他に、よく飛ぶゴルフボール、車のタイヤの強化などにも利用されている。世界では香辛料や玉ねぎなど殺菌、殺虫、滅菌、熟度調整などのために利用されている。講義を聴いて、放射線は身のまわりに当たり前にあり、量に気をつけること、また上手にコントロールし管理すれば生活に有益であることを知り、生活者としてその実態をしっかりウオッチングしていくべきだと思った。また、この講座は、放射線を「正当に怖がる」ためのきっかけになった。(あすかI社'-フォーラム清水かほる)

フリータイムの大友さんが、ストレッチ指導



講座 原子力の安全性 石油事情 グループトークの場で生きるファシリテーション を研修。

講座 「石油事情について」

前国際エネルギーフォーラム事務局
エネルギー局長 河原一夫氏



原油価格を決定していたのは、ロックフェラー、メジャー、OPEC、WTIというように時代ごとに変化していった。原油価格の決定要因は、経済成長率や石油需要などの需要と石油生産・輸出、製油所・タンカー等の事故などの供給、イラン核開発、パレスチナ・イスラエル紛争などの社会に不安を与える要因から成っていることがよくわかった。原油価格は産出量だけでなく、政治的な要因が絡み合って決定される。原油輸入に対する依存度が高い日本は、中東への理解を一層深めることが必要と感じた。(エネコウイング 川崎千晴)

講座 「ファシリテーション講座」

ライフデザイン研究所 FLAP

岩木啓子氏



ひとが集まってテーマがあればうまくいくのかそうではない。そこには1.ねらい 2.すすめかた 3.スケジュール 4.心がまえが必要となることがわかった。また、アイスブレイク(本音で率直に話しができる関係性を作る時間)の重要なことや、問題の本質をつかまえて、どう表現するか、人前で話すときの役に立つ法則など実践を交えながらの、楽しく役立ち度120%?の内容だった。

(えひめI社'-の会 岸朋子)